

## 超高齢社会と家族機能の変化 お茶女大生活 袖井孝子

産業化の進展は家族機能を外部の専門機関に譲り渡し、情緒的安定機能と養育扶養機能とに集中させてきた。さらに産業構造の変化による第三次産業の拡大は、女性の就業機会を増し、結果としてそれまで女性が家庭において担ってきた機能のいくつかを家庭外に放出させることになった。

少子化高齢化がもたらす超高齢社会は扶養する人口に比べて扶養される人口のほうが相対的に大きい社会であり、社会全体としても個別家庭においても扶養負担をどのようにして軽減するかが大きな課題になる。扶養負担の増大は、家族にとって本質的な機能とみなされる情緒安定機能の喪失にも繋がりがかねない。超高齢社会において家族はどのような機能を果たすのか、家族機能を補完するためにはどのような社会的サービスが望ましいのか、そもそも人は家族にたいして何を期待するようになるのかなどについて考察を加えたい。